

大学ポートレートの普及について 高等学校の実態から考える

公益財団法人日本進路指導協会

理事・調査部長

千葉吉裕

保護者世代

1960年代後半～1970年代後半生



高校時代は

「お受験」「テレビゲーム」「バブル」

大学時代は

～「バブル」～「就職氷河期」

予備校依存の受験、一人遊び、金銭感覚

保護者世代の高校時代の学び

学習指導要領 昭和52年改訂

ゆとりと充実

ゆとりある充実した学校生活の実現



学習負担の適正化

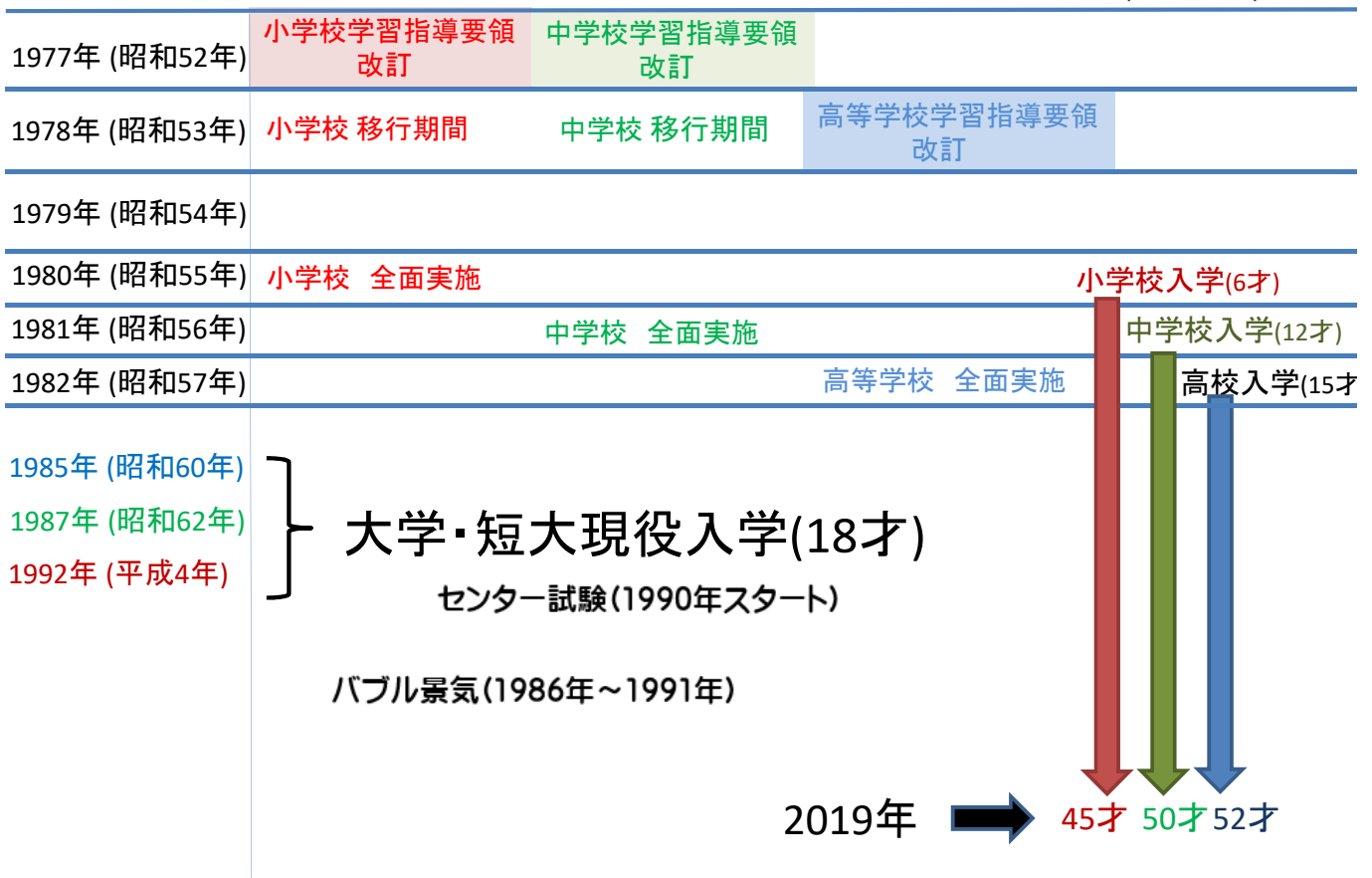
受験勉強が変化

学習指導要領昭和52年改訂

1974年 (昭和49年)生まれ

1969年 (昭和44年)生まれ

1967年 (昭和42年)生まれ

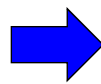


大学入試センター試験

1990年(平成2年)スタート

- ★私立大学の利用
- ★国立大学
 - 連続方式・分離分割方式
- ★利用教科・科目を
各大学が自由に指定できる
アラカルト方式

大学の序列化が加速



偏差値による大学選びが浸透
受験産業に依存した大学選び

[オープンキャンパスも、インターネットによる情報発信もない時代]

高校進路指導の変容

教員の大量退職・大量採用時代



- ★ベテラン教師が退職
- ★進路指導の基本的知識・技能を
持たない教師の増加

同一校の在任期間の短縮

全国的な公立高校の異動方針の変更

- ★長期間にわたって分掌専任を担う教員が減少
- ★学校の特色化が薄れる

→ 仕事の継承が難しくなる

保護者世代

依存

組織・集団

経済性重視

働く意義

モノ

豊かさ

損得

消費行動

受動的収集

情報

生徒世代

希薄

個人性重視

コト

自分感覚

選択的収集

学校選びの際、

どんな情報を頼りにしているか

学校案内

各大学のHP

オープンキャンパス

受験産業の広告サイト

予備校のランキング表

無料の広告紙

ブース形式の学校説明会

.....

情報提供側の広報・広告に基づく大学選び

大学ポートレートについて

高校教員・保護者・生徒は……

★知らない

- ・予備校・受験産業は大学ポートレートのことを伝えない
- ・各都道府県教育委員会も、伝えない

★必要性を感じてない

- ・入学試験の難易度でも大学選びはできてしまう
- ・他の広告サイトと違いが分からない

★活用の仕方を知らない

- ・進路指導に関する手引きが発刊されなくなった
- ・利用した経験がない

★学校には活用する環境が整っていない

- ・学年全員が同時に使えるPCが揃っていない
- ・同時接続端末が多くなると通信速度が低下

大学ポートレートについて

利用・研修の機会を

ワークショップで、大学ポートレートを実際に活用し、他のサイトでは得られないメリットを体感させる

 SNSでの拡散、各都道府県での伝達講習で普及

例えば

東京大学主催

主要大学説明会

各大学の

オープンキャンパス

独立行政法人教職員支援機構主催

教職員等中央研修

かつておこなっていた

大学入試センター主催

大学ガイダンスセミナー

のような機会の創設